

星座むかし話 オリオン座

豊明ジュニア天文クラブ

①むかし、むかし、
ギリシアの山に
オリオンという狩人と
光の神様(アポロン)
月の女神様(アルテミス)
がいました。

②アルテミスとオリオンは
狩が大好き。
いつも狩に出かけていました。
アポロンは音楽が大好き。



・・・でも、アルテミスもオリオンも狩に夢中で聴いてくれません。
「おのれ、オリオンさえ居なければ・・・」光の神様は闇の心に覆われました。

③ある朝、アポロンはオリオンに
「海の向こうにある島のライオン
を退治してほしい」
と頼みました。
オリオンは海を渡りました。



④すると、アポロンはアルテミス
を起こして、こう言いました。
「海の向こうに見えるあの光を矢で狙えるかな？アルテミス」
アルテミスはそれがオリオンとも知らず、矢を発射・・・
しかし、それがオリオンだと知って深く悲しみました。



⑤アルテミスは悲しみのあまり、
家から一步も出なくなりました。
もちろん、アポロンの音楽など
耳にも入りません。

そして、月明かりのない真っ暗な夜
が続きました。

⑥これを知った、アルテミスの父
(ゼウス)はオリオンを月の通り道
付近の星座にしましたとさ